

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 5 区分

【発行日】平成24年8月23日 (2012.8.23)

【公開番号】特開2011-46290(P2011-46290A)

【公開日】平成23年3月10日 (2011.3.10)

【年通号数】公開・登録公報2011-010

【出願番号】特願2009-196731(P2009-196731)

【国際特許分類】

B 6 2 J 23/00 (2006.01)

B 6 2 J 17/04 (2006.01)

B 6 2 J 99/00 (2009.01)

【F I】

B 6 2 J 23/00 F

B 6 2 J 23/00 B

B 6 2 J 23/00 G

B 6 2 J 17/04

B 6 2 J 39/00 E

【手続補正書】

【提出日】平成24年7月6日 (2012.7.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 4】

図 1 には、前記スイッチ 4 1 ~ 4 5 を取り付ける前のハンドルカバー 1 6 を示しており、後カバー 1 8 に形成されたスイッチ 4 1 ~ 4 5 の装着用開口のうち、ディマースイッチ 4 1 用の開口 4 6、ホーンスイッチ 4 2 用の開口 4 7、エンジン停止スイッチ 4 4 用の開口 4 8 が見られる。後カバー 1 8 には、ブレーキにブレーキオイルを供給するマスターシリンダ（図示しない）のオイル量確認用開口 4 9、4 9 が設けられる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 8】

図 3 において、ヘッドライト 2 0 は、上縁がメータバイザ 2 5 およびサブカバー 1 9 の前縁に対面当接し、さらに左右および下方が前カバー 1 7 に対面当接している。ヘッドライト 2 0 は、リフレクタ 5 6 を備え、リフレクタ 5 6 の焦点位置にはバルブ 5 7 を配置している。ヘッドライト 2 0 の前面はレンズ 5 8 で覆われる。レンズ 5 8 は、図 2 0 から理解できるように、上端が下端に対して後方に位置しているレンズ面を有する。前カバー 1 7 および後カバー 1 8 には、両者を互いに結合する際に使用されるボスや、両者をそれぞれヘッドライト 2 0 やメータユニット 3 8 に結合する際に使用されるボス等が形成される。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 4 1 】

図 4 において、後カバー 18 には、メータユニット 38 の後方側壁に対応する位置に、メータユニット 38 側に突出するボス 61 が形成される。このボス 61 には、メータユニット 38 に形成されるステー 38A (図 11 に関して後述) の孔にメータユニット 38 側から通すことができる止めねじがねじ込まれる。さらに、後カバー 18 には、オイル量確認開口 49 に隣接して、前カバー 17 側に突出するボス 62 が形成される。このボス 62 は、後カバー 18 をバーハンドル 7 に結合するために設けられる(結合態様は図 7 に関して後述)。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0054

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 5 4 】

図 11 において、正面視で外形が略逆三角形に形成されるメータユニット 38 は、計器部 91 と、計器部 91 の前方に位置するインジケータ表示部 68 とからなる。計器部 91 には、速度計 92、残燃料計 93、冷却水温計 94、走行距離計 95、および時計 96 を含む。速度計 92 はメータユニット 38 の中央後方寄り(図 11 では下寄り)、残燃料計 93 はメータユニット 38 の右前方寄り(図 11 では右上寄り)、冷却水温計 94 はメータユニット 38 の左前方寄り(図 11 では左上寄り)、走行距離計 95 および時計 96 は残燃料計 93 および冷却水温計 94 のほぼ中間部に、それぞれ配置される。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0055

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 5 5 】

したがって、メータユニット 38 は、全体的に速度計 92 が配置される後方部で左右幅が狭く、複数の計器が左右方向に整列されている前方部で左右幅が広い逆三角形をなしており、特に、計器部 91 は、残燃料計 93 と冷却水温計 94 の指針を旋回可能にするため、左右前方(図 11 では左右上方)に張り出させた領域 38a、38b を有する変形逆三角形となっている。そして、領域 38a および 38b の間、つまり張り出し部間に、インジケータ表示部 68 が設けられる。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0073

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 7 3 】

また、垂直壁 134 によって速度計 92 が設けられた領域 38c と冷却水温計 94 が設けられた領域 38a とを明りょうに区画することができる。操作部 101 が設けられる上ケース 102 の張り出し部分 104 やインジケータ表示部 68 にも、同様に見返し部が設けられ、垂直壁 134 と同様の機能を有する。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0074

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 7 4 】

張り出し部分 1 0 3 および張り出し部分 1 0 4 の前縁 1 0 3 a、1 0 4 a および後縁 1 0 3 b、1 0 4 b は、後カバー 1 8 に形成された屈曲面を示す線 1 7 0、1 7 1 や 1 7 2、1 7 3 と連続して、メータユニット 3 8 と後カバー 1 8 との連続性を感じさせる特有の外観を呈している（図 4 参照）。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 7 8】

図 1 3 ~ 図 1 7 において、上ケース 1 0 2 と下ケース 1 0 6 との合わせ部は、例えば、図 1 6 を参照すると、上ケース 1 0 2 の下縁に形成された減厚部 1 4 8 と、減厚部 1 4 8 を両面から挟むように下ケース 1 0 6 の上縁に形成された溝 1 4 9 と、溝 1 4 9 の底部に収められ、組み立てられた状態では溝 1 4 9 の底部に向けて減厚部 1 4 8 で押圧されるシール 1 5 0 とからなる。

【手続補正 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 8 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 8 3】

図 2 0 は、ヘッドライト 2 0 の縦断面図である。ヘッドライト 2 0 は、上述のように、リフレクタ 5 6、バルブ 5 7、レンズ 5 8、およびバルブ 5 7 およびリフレクタ 5 6 を収容するヘッドライトハウジング 7 8 を有する。ヘッドライトハウジング 7 8 の頂部にはブラケット 7 9 が突出しており、ブラケット 7 9 の前面には、前カバー 1 7 に形成されているボス 6 7 が対向している。ブラケット 7 9 にはゴムブッシュ 1 7 4 が嵌め込まれ、このゴムブッシュ 1 7 4 に形成される孔を通して止めねじ 1 7 5 がボス 6 7 にねじ込まれる。ブラケット 7 9 と同様のブラケットがヘッドライトハウジング 7 8 の左右に張り出して設けられ、止めねじを使って前記ボス 6 3 と結合される。ヘッドライトハウジング 7 8 の前端部には、レンズ 5 8 の後端部が結合されている。

【手続補正 1 0】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 8 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 8 6】

バルブ 5 7 の後方を覆うキャップ 1 8 0 がヘッドライトハウジング 7 8 の後部に取り付けられる。キャップ 1 8 0 の下部には、バルブ 5 7 に給電するためのケーブル（図示しない）が貫通可能な筒状のケーブル保持部 1 8 1 が形成されている。